

## 令和 5 年度 第 1 回豊田市市民活動促進委員会記録

日 時	令和 5 年 5 月 17 日（木） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 15 分
場 所	とよた市民活動センター
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 委員（敬称略、会長・副会長以外 50 音順） 谷口功（会長）、伊東浄江（副会長）、秋山聖、有我都、鬼木利瑛、白木太陽、鈴木聖人、都築朗、戸田友介、西村新、長谷川和哉、三島知斗世、森波かおり 以上 13 名</li> <li>● 事務局 市民活躍支援課：小澤課長、和出副課長 とよた市民活動センター：清水所長、近藤担当長、勝川主事</li> </ul>
傍聴者	なし
欠席者	なし

### 1 開会

- (1) 開会のあいさつ（所長）
- (2) 課長あいさつ（小澤課長）
- (3) 委員自己紹介（各委員）
- (4) 市民活動促進委員会の概要

事務局から市民活動促進委員会の概要について資料 1 に基づいて説明しました。

### 2 議事

- (1) 市民活動促進補助金審査会審査員の指名について（報告）

事務局から市民活動促進補助金審査会審査員の指名について資料 2 に基づいて説明しました。

- (2) 市民活動促進補助金について（報告・協議）

事務局から市民活動促進補助金について資料 3-1、3-2 に基づいて説明し、内容についてご意見いただきました。

E 委員	活動ステップアップ部門・新規事業チャレンジ部門が少ないことに関して事務局では原因をどのように考えているのか。
事務局	補助率やどのように団体として成長していくかなどの補助要件があることが補助申請が少ない要因につながっていると考えます。
C 委員	以前は「つなぎすと」が伴走支援をしていた。現在どのようになっているのか知りたい。活動ステップアップは団体運営の気づきのために外部からのアドバイスや投げかけは重要だと思っている。
事務局	活動ステップアップ部門等は、以前つなぎすとをしていた方に依頼し団体と共に考えることを行っている。
L 委員	この補助金がどこを目指していくのか。コミュニティビジネスを目

	指していくのか。寄附を求めるところを目指すのか、資金調達のアプローチをするのか等どのあたりまで検討していくのか。
A 委員	まずは自由に議論していただきながら、この委員会として必要な根拠を示していけたらと思う。申請件数が少ないからそのまま縮小していく議論もある中で、本当に必要なのかということをお場で考えていきたい。
J 委員	昨年度補助金の活動ステップアップ部門の補助金交付を受けたことに加えて、とよたプロボノシナジープロジェクトに参加して、プロボノさんによる人的な支援も同時に受けた。団体として、3～4年になると組織としてどう動いていくかといった部分が悩ましい時期で、企業に所属されている方からの目線は団体の組織を構築していく上で大いに役立ったし、今後受け入れる場合は自身で組織を動かしているような目線での支援が欲しいなと考えている。これは他の団体でも3～4年ぐらいになると組織の在り方に悩む時期になってきて、金銭支援だけでは難しいと感じるのではないかと思う。
F 委員	今まではじめの一步の補助金を受けた補助団体はどれくらい継続されているのか。また、はじめの一步交付団体のうち、活動ステップアップや新規チャレンジに挑戦した割合はどうか。単に次のステップに挑戦しない理由が補助率等だけではない部分もあるかもしれない。そもそも、はじめの一步を求めている団体が多いのかもしれないのであれば、補助額等や審査を緩くするなどを検討していくことも必要である。はじめの一步の支援はお金の面で継続を支援し、活動ステップアップや新規チャレンジは専門家等の伴走支援も含めた人的支援とすみ分けて考えていくことも必要かもしれない。
E 委員	金額に関して、物価が上がっていることから、以前と比べて同じ10万でもできることが限られるのでは。金額の妥当性についても検討が必要では。

(3) 令和5年度の市民活動センター主要取組について（報告・協議）

事務局から令和5年度の市民活動センター主要取組について資料4に基づいて説明し、内容についてご意見いただきました。

・市民交流カフェ事業

B 委員	登録団体がお互いどんな目的でお互いどんなことをしているのかを知れて、こんな情報を求めているとかこんなことしていますとかわかるといいなと思う。色々な講座等の企画がある中でなかなかそこに行けないこともある中でその場で会えると良い。
D 委員	団体同士の交流、多様な形の居場所づくりになると良い。日常的に

	何かここに来ると情報がもらえる、誰かがいるなど居場所を求める人にとって、自然に居場所になっていくことが望ましい。既存の人ではなく、新しい人が「ぱっと」来た時にも入りやすいような場であつたら良いと思う。
A 委員	固定化している部分をどう打破するのが重要になってくる。
B 委員	事例として、企業で整理整頓をやっている方が来てくださった。お互いに学びがあり、教室レイアウトの提案を受けたことが学校の先生へのレクチャーに繋がるなど活動が広がった。

・とよボノ事業

G 委員	弊社内の状況で言うとプロボノそのものがまだまだ浸透していないと感じる。「プロボノ」という言葉だけではイメージできないのではと感じている。自分の経験やノウハウを生かすことができることに気づく機会があるとやってみようかと思うので、まずはそのような機会提供が必要かと思う。そのような場で関心や共感を持っていただけたらうまく広がっていくのかなと思う。
A 委員	プロボノという言葉が当たり前に使ってしまうが、知らない人がいることを前提に広報をしていく必要がある。
H 委員	青年会議所メンバーに行ってほしいと思った。この事業が一方向的なボランティア、協力に見えてしまう。やっている側も自分のやっていることに意味を持たせられるような制度説明ができると良い。

中間支援組織との連携強化

M 委員	市民活動センターが何をやっているのかわからない交流館職員も結構いるのではないかと。センターの職員も交流館についてどう認識しているのか。一般の市民の人からすると、市民活動センターってどこにあるの？そのレベルの人もたくさんいるような気がする。誰もが理解できるような表現・チラシ・PR をできると良いと思う。
A 委員	今の話を踏まえると、そもそも市民活動が何か？センターの役割は何か？といったところからもう少し埋めていかなければいけない認識があるだろうなと思う。 一例として、大学生がゼミで行う活動も市民活動という意味も持っているということもイメージしてもらえると良い。
K 委員	社会福祉協議会では活動のはじめの一步や何かしたいなっていうぼんやりしているものを形にするってところから、ボランティア活動につないでいく役割を担っている。ある程度、活動ができてきて、自立して高める段階になっていくと、例えばプロボノになったりとか。1 人の人が活動が始まって、思いを遂げるまでの過程で連携できていくと良いのかなと思う。
A 委員	ボランティア連絡協議会を解散している自治体が出てきている中で豊田市はどうか。

K 委員	<p>豊田市はすごくエネルギーはあるけれども、メンバーが固定化しているのでどう生かしていくのかというのは課題。他とつながるという意味で市民活動センターとつながることで見えることもあるかもしれない。</p> <p>一方で、ニーズを拾う役割もある。公的サービスでは支えることが難しい制度の狭間で生活に苦しんでいる人たちに個別にボランティアとして支援に入ってもらっている。生活を組み立てやすくするとか、暮らしやすくするニーズに対して、社協のコーディネートだけではなくて、活動センターとも連携できると、困っている人がもう少し暮らしやすくなるのかもしれない。</p>
<p>・全体を通して</p>	
L 委員	<p>中間支援の在り方について、当事者に寄り添う部分と情報を貯める部分の機能を持っている。属人的につながりがかなりある中で、人が代わってしまうと、結局全部わからなくなってしまうことを毎年繰り返している面もある。各組織でテーマごとに情報を蓄積することと、横断的に情報を共有していく必要がある。各中間支援組織が多様なニーズに寄り添うことを大切にしながら、つながる先の共有など中間支援組織同士の連携が大切だと考える。</p>
A 委員	<p>おそらく、行政と市民活動や地域活動という中で一番壁にぶつかる部分は制度に関することはシステムとして入れ替わりが可能でマニュアル化していくこともできるが、実際の活動の面では人的で細やかな面になる。よって、人が代わるとなかなか継続ができない。そういったジレンマを抱えながら市民活動は進んでは戻ることを繰り返しながら歩んでいるというのが実情。どこの自治体でも同じような悩みを抱えている。</p>
C 委員	<p>中間支援機能の充実については、情報をシステムの的に形にしていくのも1つの方法だが、事業を複数の中間支援組織と一緒に進める過程において、様々な情報やノウハウ等が共有される機会になる。今回の交流館との連携というのがその一歩に繋がるのではないか。</p>

## 閉会

(1) 議事録確認のお願いをしました。